

相談支援係
072-941-3365

情報チーム
072-943-5785

研究研修係
072-943-5784

教育センター
Web pageは
こちらから



初任者研修⑩「授業づくり7」



令和4年11月10日(木)午後2時20分～午後5時に初任者研修⑩「授業づくり研修7」を成法中学校で行いました。この研修は初任者が初任者に対して授業を公開し、効果的な授業づくりについて研究を深めるものです。この日は成法中学校の清水遥日先生が中学1年生の英語の授業を行いました。授業を参観した初任者は、他校種・他教科の教諭もいますが、授業を行うにあたって共通する課題を見出し、班別に討議を行い全体で意見を交流しました。

最後に海部広明指導員より授業の講評と英語教

育の現代的課題について講話がありました。この研修は全4人の初任者が授業を公開します。

＜参加者感想＞

- ・子どもの活動中心で授業が進んでいたのがとても良いと思った。今何をするかを全ての生徒が把握し、さらに自分のレベルに合わせた活動ができるので、子どもの意識が授業からそれることなく進められていた。
- ・ICTを効果的に活用することによって、支援を必要とする児童や何らかの理由で学校に登校できない生徒の学習もカバーできていた。
- ・授業の各活動の中にスモールステップを取り入れて、さらに流れをルーティン化することによって、児童生徒が混乱せずにやるべきことが明確になることがわかった。



ICTを活用した授業づくり研修②



令和4年11月14日(月)午後3時30分～午後5時に「ICTを活用した授業づくり研修②」を本センターで行いました。研修講師は木村明憲先生(桃山学院教育大学)です。研修テーマは「シンキングツールの効果的な活用について＜応用編＞」です。

※シンキングツール(思考ツール)：授業支援ソフトの中に装備されているもので、「比較する」「分類する」「関係付ける」など、考えるときの

さまざまなパターンを図で示しています。これにより「自分の考え」をまとめるのを助けてくれます。

<参加者感想>

- いきなり授業の中でシンキングツールを活用し運用していくよりも、別時間に使い方を学ぶことが大切であるということを実感できた。国語や社会の中で、調べたことを自分なりに考えまとめていく単元がたくさんある。その中で何度もシンキングツールやタブレット端末を使うことで子どもたちの知識の定着を図っていけるところがすごいと思った。
- シンキングツールの使用は目的ではないと思っていたが、「使いこなせるようになるには、使うことが目的であることもある」ということばで、納得できた。
- 子どもの気づきから授業の問いを見つけたり、子どもの言葉で説明したりすることもシンキングツールをうまくつかうことで引き出すことができるのではないかと思った。

ICT 研究推進校最終報告会（南山本小学校）

令和4年11月18日（金）午後2時～午後4時50分にICT研究推進校最終報告会（南山本小学校）を行いました。本市では令和2年度～4年度にかけて市内4校をICT研究推進校として指定し、ICT教育推進のための研究を行ってまいりました。今年度は最終年度にあたり各校の報告会が行われます。南山本小学校の研究テーマは「これまでの教育実践を活かしたICTの効果的な活用」です。全体会では仲矢史雄教授（大阪教育大学）より「ワーキングメモリーとICT」を中心にご講演をいただきました。

2年1組 国語科
「冬がいっぱい」

岸田 高明 先生



3年2組 社会科

「市のようすと 暮らしのうつりかわり」

辻下 浩行 先生



5年1組 理科
「ふりこのきまり」

岩田 侑一郎 先生



浦上 弘明 教育長（右端）



南山本小学校の実践報告
辻下 浩行 先生



指導講評と講演教授
大阪教育大学 仲矢 史雄



通級指導教室公開授業③



令和4年11月21日（月）午後3時～午後5時に通級指導教室公開授業③を本センターで行いました。講師は今村佐智子さん（一般社団法人 発達支援ルームまなび）です。通級指導の様子を動画視聴で共有した上で、担当教員からの実践報告を行いました。これについて今村さんから具体的かつ多面的な方向からのアドバイスをいただきました。

＜受講者感想＞

- おすすめの教材や「こういうやり方もある」とアドバイスをいただけたので、とても参考になった。
- 何に困り感があるのか、細かくアセスメントシートで分析したうえで、必要な支援を考えていかなければならないことがよく分かった。
- 話す力、説明する力は卒業後に必ずいる力なのでアセスメントの大切さがよくわかった。
- できない課題に直面した時の生徒の心情を想像して支援にあたりたい。
- 生徒の興味やテンションにチャンネルを合わせること、授業内に言葉、リアクション、ジェスチャー、拍手などで100回以上は褒めていたこと、生徒のニーズに合ったちょっとがんばったらできる課題の設定など、可能な限り実践していきたい。



研究協力員（理科部会）授業公開

令和4年11月22日（火）午後2時30分～午後5時まで研究協力員（理科部会）の公開授業を大正小学校で実施しました。授業者は吉村育律先生で6年生の「てこのはたらき」の授業を行いました。授業終了後、理科部会の研究協議を行いました。「てこのうでがつり合うと

きの、左右のおもりの位置と重さの関係について考えよう」というのが本時の「めあて」です。前時の実験結果をもとに本時の実験について「予想」を立て、その結果を分析して「位置と重さの関係」について論証し、授業支援ソフトを使って全体で共有するというものです。

<研究協議より>

- ・タブレットを有効に使っているのがよかった。
- ・少数の意見についても、もう少しスポットを当ててもよいのではないか。
- ・「正解」を求めることにとらわれず、自由な発想で予想をたてているところがよかった。
- ・授業支援ソフトの提出用シートが色分けされているのが分かりやすかった。

教育支援研修



令和4年11月22日（火）午後3時～午後5時に本センターで教育支援研修を行いました。研修講師は水野治久教授（大阪教育大学）で講義・グループワークのテーマは「学校におけるチーム支援について」です。



<受講者感想>

- ・ケース会議の持ち方について具体的に学ぶことができた。
- ・ロールプレイを行ってみて、自分では常識だと思っていたことが、人によって考え方が違うということを再認識できた。
- ・ケース会議を行うにあたって、必ずアクションプランを立てる、ゴールを明確にする、ということが大切であると納得した。

中学校「英語」授業づくり研修



令和4年11月24日（木）午後1時20分～午後5時に八尾中学校において中学校「英語」授業づくり研修を行いました。授業は1年生のクラスで金子英明先生（英語科）が『**Discover Japan**』（NEW CROWN English Series：株式会社三省堂）の単元で松田拓也先生と授業を行い、その後①「本日の授業について」②「言語活動のさらなる充実をめざして」をテーマに加賀田哲也教授（大阪教育大学）から指導・助言とご講演をいただきました。

<受講者感想>

- ・4月から生徒達と信頼関係を築くための努力、中間指導や振り返りなど丁寧な指導の積み重ねがあってこそその授業だなと感じ、英語を使いながら学ぶことの大切さを改めて認識することができた。
- ・加賀田先生の講義では、英語教育は人権教育という、授業のその先を見据えた大きな枠組みへ意識を開放してもらえたような気持ちになった。「共生、共存」を心に留めて、日々の授業に活かしていきたい。
- ・スモールトークの実践が本校ではまだまだ少ないので、活動を広めていきたいと思った。
- ・英語教育の目標・目的についてお話ししていただいたことで、自分の授業について改めて考えさせられた。また、場面設定などその時の生徒の実態や興味関心によって教員がしっかりと考えて授業づくりをしていくことの大切さを感じた。



第3回幼保こ小合同研修会

令和4年11月25日（金）午後3時30分～午後5時に幼保こ小合同研修会を本センターで行いました。本研修はグループワークで、テーマは「授業、保育見学についての意見交換」と「スタートカリキュラム（たのしみタイム編）の作成」です。

※「スタートカリキュラム」とは、小学校へ入学した子どもが、幼稚園・保育所・認定こども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラムです。

【文部科学省 国立教育政策研究所「スタートカリキュラムスタートブック」より】

本市では、遊びを中心とした学びから教科学習へ徐々に移行できるように、3つの活動形態（たのしみタイム・わくわくタイム・ちゃれんじタイム）を基に時には複合的に取り入れながら設定して実践していくものとしています。

詳しくは、「接続期における教育・保育実践の手引き」（平成26年八尾市・八尾市教育委員会発行）に記載しています。この手引きは右のQRコードからご覧いただけます。



<受講者感想>

- ・「遊びながら学ぶ」ということの大切さがよく分かった。これからも遊びを通して協調性やコミュニケーション能力を高めて小学校へ送り出していきたい。（保育園の先生）
- ・カリキュラムを考えていく中で、「子ども主体」ということの大切さを感じた。卒園した子どもたちが、次の1年間どのように過ごしていくのか考える機会になった。（幼稚園の先生）

- グループワークが中心の研修で、他園や小学校の様子を交流することができた。カリキュラム作成に当たっては、鬼ごっこについて「ルールを守って楽しく遊ぶ」ことは小学1年でも援助が必要だということが分かった。明日からの園での指導でも意識していこうと思う。
(こども園の先生)
- 小学校と園では違うことが多いと思っていたが、実際には共通点も多い。園でも小学校を意識して指導しているということがよくわかった。
(小学校の先生)

プログラミング研修



令和4年11月28日(月)午後3時~午後5時にプログラミング研修を本センターで行いました。研修テーマは「アーテックロボを使ったプログラミング研修」で研修講師は武田尚也さん(株式会社アーテック)です。

今回の研修では、コンピュータでプログラムしたデータを「アーテックロボ」に転送することで、押しボタン信号を作ったりロボットを作り自動停止させたりしました。

※株式会社アーテックは八尾市に本社を置く会社です。本市教育委員会と令和2年から包括連携協定を締結しており、プログラミング教材(「アーテックロボ」など)についても貸し出しいただいています。

<受講者感想>

- 今、学校でプログラミングに取り組む活動をしているので、今日の研修はとても参考になった。
- 計測・制御の学習で使うことを目的に受講したが、十分に期待を満たすものであった。
- プログラミング教育は、様々な場面で意識して行っているが、日常的に触れるロボット教材があれば楽しいと思う。



初任者研修⑰『授業づくり8』



令和4年12月1日(木)午後3時~午後5時まで、初任者研修⑰『授業づくり8』を行いました。研修テーマは「八尾を学ぶ 歴史探訪」です。研究交流(それぞれの校区を学ぶ)とフィールドワーク(心合寺山古墳・愛宕塚)を前後半交代で行いました。

【研究交流】

歴史だけではなく、各校区の産業、文化など多面的な研究を交流することができました。

【心合寺山（しおんじやま）古墳→】
 「ハニワこうてい」も温かく迎えてくれました。古墳の南西部にある古墳学習館は指定管理者制度によってNPO 法人が運営しています。中学生以下は入場無料です。



【←愛宕塚（あたごづか）古墳】

古墳の周囲は綺麗に整備されていて、玄室内は真っ暗でスマホの照明で周囲を照らしていました。内部の高さは4m以上あり、石舞台古墳にも匹敵するほどの大きさです。



＜受講者感想＞

【子どもたちにどのように伝えたいか？】

- ・八尾市と一口に言っても、地域ごとに様々な歴史や文化の背景を持っていることについて改めて実感することができた。そのため、自分が住んでいる地域のことにも興味を持って学習できるように指導をしていきたいと思った。特に、自分たちが普段通っている道や、何気なく歩いている場所についても、歴史的な背景が絡んでいることがあることを、伝えていきたい。また、子どもたちが自分の住んでいる地域だけでなく、他の地域にも興味を持てるようにしていきたいと感じた。

【子どもたちとオリエンテーリングをするときに気を付けるべきことは？】

- ・事前指導をしっかりとしてから行きたいと思った。課題意識をもって見学することが大事だと思った。
- ・古墳は「お墓であること」、「そこで眠っている人がいること」が意識できる指導が必要だと思った。
- ・道路歩行はもちろんのこと、施設などに入った時も、自分たちの安全と他の人の迷惑にならないように指導したい。

教育センター「情報公開コーナー」

教育センターB棟（東側）の2階に「情報公開コーナー」があります。各種教育関係図書・雑誌等を配架しています。もちろん「教科書センター」として八尾市で採択している教科書や

他社の教科書もあります。研修等で来所された時に直接ご覧いただければ幸いです。教科書・その他書籍・雑誌等も2週間の貸し出しを行っております。今回は11月から12月に配架した雑誌の誌名と目次の一部を紹介いたします。

「指導と評価」（日本教育評価研究会）12月号

- ・特集1 令和四年度全国学力調査の分析
- ・特集2 わが校の授業研究〈小学校編〉

「道徳教育」（明治図書）12月号

- ・特集 今こそ、体験的な活動を見直そう 役割演技からエクササイズまで

〈雑誌記事を読んで〉

「アンコンシャス・バイアス」（無意識の思い込みや偏見）

「道徳教育」（明治図書）12月号の69ページ 小特集 道徳授業における特別なニーズのある子への支援と配慮事項・・・「LGBTs（性的少数者）への支援と配慮事項」（内海崎 貴子教授：川村学園女子大学）の文中に出てきます。ここで「アンコンシャス・バイアスの例として「男の子は活発で乱暴、女の子は繊細で、泣き虫」「男子は論理的で理系向き、女子は感情的で文系向き」などが例示されています。そもそも男女だけの区分で考えることにも問題があります。こういう考えが言葉として発せられると「マイクロ（小さな）アグレッション（攻撃性）」ということになります。（葭仲）

「月刊学校教育相談」（ほんの森出版）12月号

- ・特集1 「すぐあきらめる子」にどうかかわるか
- ・特集2 多忙化の中で燃え尽きないための工夫

「特別支援教育研究」（全日本特別支援教育連盟編集、東洋館出版社）12月号

- ・特集 いまの学びと将来をつなぐキャリア・パスポート

「初等教育資料」（文部科学省編集、（株）東洋館出版社発行）12月号

- ・特集Ⅰ GIGA スクール構想のもとで各教科の指導①
- ・特集Ⅱ 学習指導要領における指導のポイント
「図画工作」図画工作科における「技能」の習得と活用

「中等教育資料」（文部科学省編集、学事出版）12月号

- ・特集 中学校における資質・能力の育成に向けた教育活動の充実
〈国語，社会，数学，理科〉

教育科学「国語教育」（明治図書）12月号

- ・特集 「エンゲージメント」×国語授業
ー学習意欲を高める指導技術・活動アイデア

教育科学「社会科教育」（明治図書）12月号

- ・特集 3観点の学習評価を位置づけた社会科授業プラン

「新しい算数研究」（新算数教育研究会編集、東洋館出版社）12月号

- ・特集 算数の「個別最適な学び」「協働的な学び」と能力ベースの評価

